

戦争法案をめぐる自民・公明の与党が、参院特別委員会の中央公聴会を15日に行うことを抜き打ち的に決めるなど来週中の強行採決・成立へ動きを加速しています。戦争法案廃案のたたかいは、まさに正念場を迎えています。

波状的な行動で政権包囲

国会での野党議員の論戦や野党共闘、そして国会周辺に12万人が集まり全国1000カ所以上で行われた8月30日をはじめとする歴史的な国民運動が、安倍晋三政権に衝撃を与えています。自民党幹部は、来週末からの連休に全国各地でさらに多くのデモ・行動が行われることもあり、「デモに囲まれての採決はできない」と判断し採決を急ぐと報じられています。

主張

戦争法案の阻止へ

いままでも展開されてきた国民運動を総結集して、国会前で、地方で、集会・デモなど巨大な運動を波状的に繰り広げ、安倍政権をさらに追い詰め、戦争法案をなんとしても廃案に追い込もうではありませんか。

いま正念場 たたかい総結集を

SEALEDs (自由と民主主義のための学生緊急行動) は、10日から国会正門前で連続行動をスタートさせました。12日は「止めようー辺野古埋め立て国会包囲行動」が午後2時から行われます。13日は近畿2府4県の若者11グループが午後4時から大阪市の御堂

筋で大規模なデモを行います。14日からは毎日午後1時から国会正門前入り込み、午後6時半から国会正門前・包囲集会を実施します。とりわけ、14日の国会包囲行動には、8月30日に国会周辺に集ったすべての団体や個人はもちろんのこと、最大限結集しよう

でき、法文上は核兵器を輸送できるなど米軍への兵站活動に歯止めがないことも明らかになりました。日本共産党が暴露した自衛隊の内部文書は「軍の暴走」ともいべき実態を浮き彫りにしました。ひとかけらの道理もない戦争法案は、廃案以外ありません。それでも強行しようとするならば、国民の怒りは沸点に達するでしょう。

憲法に違反し、民主主義を守らない政権を倒すまで、絶対に諦めません。ただただやり続けます」とスピーチしました。ある中年男性も訴えます。「若者たちへの重い責任があるのは、わたくしたち親世代だ。国民をだます安倍政権は許さない。この国は、首相の私物ではない。この国の主人は、われら主権者国民一人ひとりだ」

新しい政治へ力を合わせ

安倍政権を倒し、「立憲主義」「民主主義」「平和主義」を貫く新しい政治をつくる息吹が各地に生まれ広がっています。幅広い国民の世論と運動をさらに強め、戦争法案を必ず廃案に追い込み、安倍政権の打倒を、みんなの力でかちとりましょう。